

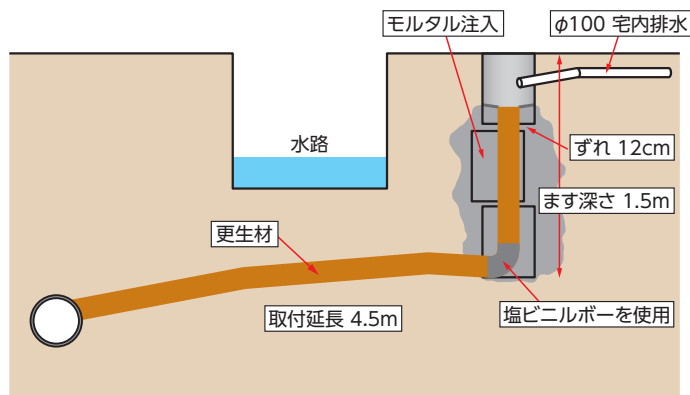
11 取付管ライニング … 更生材を利用しての底部有効ますの形成

状況

深さ150cmある汚水ます（φ350）の側壁が大きくズレており、地盤の陥没、汚水の流出が認められた。横には水路があり、開削での復元は難しい状況であった。

対策施工例

宅内からますへの流入は、上部からのφ100のみであったため、取付管ライニングの材料で立管を作成し、更生管とますとの隙間に流動性の良いグラウト材を注入。硬化後に底部有効ますとして、モルタルで底部を形成した。



ます上部からの写真



12cmのズレ、隙間



取付管ライニング後のます内

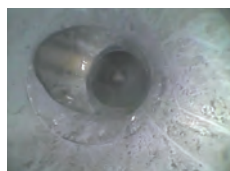


更生後、モルタル注入前の状況

12 取付管ライニング … 狭あい道路における特殊な取付管更生

状況

道路幅員2.50mの下に供用されているφ1500（更生管径1350）汚水管につながっているφ150取付管の一部に陶管が残されていた状態であった。ますについては、φ150塩ビ管の点検ますが、特殊な形状で接続されており、道幅も狭く、汚水管の土被りが2.8mぐらいあるため、開削での復元は困難であった。



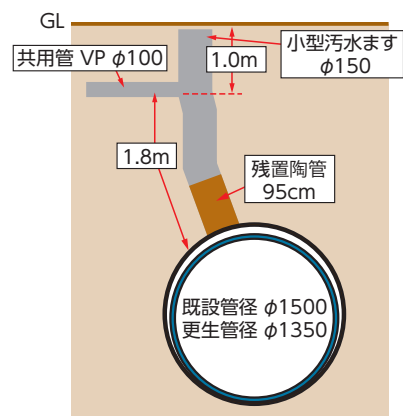
φ100 流入部



局管部

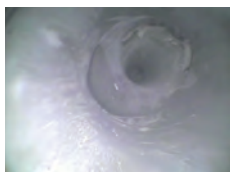


陶管部



対処

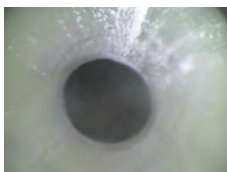
φ100の供用管（流入部）より更生管までの部分を取付管ライニングで施工を行なった。



φ100 流入部



曲管部



陶管部（端部）

